



なきむしせいとく

おきなわせん
ー沖縄戦にまきこまれた少年の物語ー

たじまゆきひこ／作 童心社

えほんな



1945年、日本はアメリカと戦争をしていました。沖縄にすむ人たちは、毎日、機関銃や爆弾で攻撃されました。そこにいた、2年生のせいとく君は、どうしたのでしょうか？沖縄のことを、知ってください。

ねえさんの青いヒジャブ

イブティハージ・ムハンマド／文

S.K. アリ／文 ハテム・アリ／絵

野坂悦子／訳 BL出版

えほんね



今日は、ねえさんがはじめてヒジャブという大きな布を頭にまいて学校へ行く、とくべつな日。まるでプリンセスみたい。ところが、そんなねえさんを見て、まわりの子たちは…。

1つぶのおこめ ーさんすうのむかしばなしー

デミ／作 さくまゆみこ／訳

えほんひ



インドのある地方にいる王さまは、とてもケチンボ。とれたお米を、ひとり占めにし、人びとが飢えても知らん顔。ある日、王さまがこぼしたお米を拾った、かしこい娘が、いいことを思いつきました。王さまにある約束をさせたのです。

霧のむこうのふしぎな町

かしわばさちこ／作 すぎたひろみ／絵 講談社

よみもの 913 加



小学6年生のリナは、お父さんに言われて、夏休みを「霧の谷」ですぐすことになった。ひとりで「霧の谷」へ向かうとちゅう、道に迷ったリナが、風にとばされた傘を追いかけると、ふしぎな町にたどり着いた。

のねずみポップはお天気はかせ

仁科幸子／作・絵

徳間書店

よみもの 913 三



のねずみの男の子“ポップ”のお母さんは、お天気はかせでしたが、大雨の次の日に川を見に行ったらきり帰ってきませんでした。お母さんがのこした観察ノートを見ていたポップは、ある日、森に台風が近づいていることに気がつき…。

バレエをおどりたかった馬

H・ストルテンベルグ／作 菱木晃子／訳

よみもの 949 社



さとうあや／絵 福音館書店

いなかにもすむ馬は、ある日、旅のバレエ団に出会い、自分もあんなふうにおどりたい！と、町に出てバレエ学校に通うことにしました。一本足で立ったり、回転したりするきびしいレッスンに、馬はついていけるのでしょうか？

小さなスプーンおばさん

アルフ＝プリョイセン／作 大塚勇三／訳

ビョールン＝ベルイ／画 学研プラス

よみもの 949 プリ



スプーンおばさんは、いつもはふつうの大きさなのに、ときどき、朝おきると、ティースプーンぐらいに小さくなってしまいます。でも、小さくなくてもおばさんは、せんたくをしたり、パンケーキだってやくの。さて、どうやるのでしょうか？

かみなり

せのおけいしろう かんしゅう
妹尾堅一郎／監修

おとわでんきこうぎょう かみなりじゃしん
音羽電機工業「雷写真コンテスト」／協力

ちしきえほん TEピンク 45

ポプラ社



かみなりの正体を知っていますか？なぜ落ちるのでしょうか？この本は、びっくりするようなすごい写真と、いっしょに、かみなりのしくみやたいせつさなどをおしえてくれます。

